

やなかわ

YANAGAWA 2013. 11月1日 No.207

今号の内容

- ◆平成 24 年度一般会計決算 ほか 2～7
- ◆11月23、24日は柳川よかもんまつり 8～9
- ◆特定健診は 11 月 30 日まで ほか 10～11
- ◆第 26 回総合美術展結果発表 ほか 12～13
- ◆市民のひろば (14-15) ◆川柳 (15) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き (16-17) ◆情報わいど (18-22) ◆がんばったね めくもり (23-24) ◆もちふみデビュー (25) ◆保健ガイド (26-27) ◆新市史抄片 (28)



伝統息づく 秋の風流

10月は、市内各地で風流が行われました。風流は、農作物の豊作を感謝し、地域の安全などを願う伝統行事。10月13日に行われた北徳益風流では、色鮮やかな衣装を身にまとった子どもたちが、鉦の音に合わせて、太鼓をたたきながら伝統の舞を見せました。またこの日は、柳川の魅力を体験する「水郷柳川ゆるり旅」の参加者が、北徳益風流と今古賀風流を見学。参加者は「衣装の色がとてもきれいで、地域の伝統を感じました」と話しました。

「鷹尾家系図」を読む

鷹尾神社（大和町鷹ノ尾）と旧大宮司鷹尾家には国重要文化財「鷹尾神社大宮司家文書」が伝わり、平安時代から戦国時代の柳川（旧山門郡一帯）の歴史がよく分かります。この中に鎌倉時代に書かれた、一通の鷹尾家の系図が残っています。

これまでの研究では、この系図は、鎌倉時代に高良別宮宮別当多米氏との相論（裁判）を通じて作成されたと考えられること、また系図の冒頭に記載される「紀氏（鷹尾家）」の初代とされる紀公昌（江波大納言）、公通（蔵人）、公章（三位）が実在とは考えられないことから積極的な利用はされていませんでした。また、この鷹尾家が紀氏であることと高良社



国重要文化財「鷹尾神社大宮司家文書」に残されている鷹尾家の系図

（久留米市）の大宮司家・座主家とともに紀氏であったことから、この鷹尾家は鷹尾社が高良別宮となった後に鷹尾社に入ってきた新入の勢力であったとの意見もありました。さてここでは、この系図の右中央にある「元盛」に注目しましょう。

この人物は「南判別当大神」と記されますが、系図をよく見ると、実はさらにその上の「鷹尾別符当住本屋敷已下所職等開発領主也、而譲与嫡子元忠之処、依無一子為公元養子、件所領等譲与了」という一文と線で結ばれています。その内容は、元盛は鷹尾別符の開発領主であり、その所職を嫡子元忠に譲ったが、元忠に子がなかったため、九州に下向して

いた紀公元を養子としたというもので、後の大宮司鷹尾家の初代は実在しない紀公昌ではなく元盛となります。この系図では、

「元盛—元忠—公元」はあたかも兄弟のように横に記されていますが、実際は親子関係です。この家は紀公元を養子に迎えることで初めて紀氏を称したのであり、元盛は元来大神姓でした。山門郡の和名抄郷は「山門・大神・大江・草壁・鷹尾」であることから、元盛は山門郡大神を出自とするのかもしれませんが。

紀公元は大宰府の長官である大宰大式の親戚で九州に下向したとされており、この系図は、開発領主であった大神元盛・元忠親子が鎮西の支配機構である大宰府の関係者と結び付くことで、在地での所職の安定化を図ったことを物語っているものと読めるのではないのでしょうか。

柳川古文書館企画展
三瀧荘と瀬高荘
●期間 ～来年2月2日
三瀧荘や瀬高荘、鷹尾別符に関する史料を展示。初公開の史料もたくさんあります。ぜひこの機会に、柳川古文書館へお越しください。

柳川古文書館副館長 田淵義樹

編集後記

●家族と大牟田動物園に行った。ケズメリクガメというカメとの触れ合いタイムがあっという間に、スタッフがこのカメは42キロあります」と解説。近くにいたお父さんが子どもに「お母さんくらいあるね」と話しかけていた。最近太ったことをしきりに気にする妻と苦笑してしまいました。（英一）

●10月21日、夜空を見上げましたか？この日は、深夜から翌日の明け方にかけてオリオン座流星群がピーク。天気も良かったのでカメラを準備したが、月が明るく貧弱なカメラの腕のため流星撮りは途中で断念。それよりカメラを持った不審者がいると通報されてないか心配だった。（賢治）

●「液体洗剤の詰め替えできる？」まるで子どもへ向けたかのような妻から私への質問だ。反論したい気持ちを抑え、晩酌を中断して詰め替える。順調だった作業だが、気を抜いた途端、容器の外に半分ほど洗剤がこぼれてしまった。「やっぱりできないね」妻の言葉が胸に響いた。（和久）

平成 25 年 9 月 末 現在

人のうごき

- 人口 70,397 人 (前月比 -74)
- 男 33,326 人 (-40)
- 女 37,071 人 (-34)
- 出生 35 人、死亡 77 人
- 転入 108 人、転出 140 人
- 世帯数 24,915 世帯 (15)